

「平成24年度第2回 豊橋市地域公共交通活性化推進協議会」議事録

○日 時 平成24年8月8日（水） 14時00分～15時20分

○場 所 豊橋市役所 第1委員会室

○出席委員 別紙「出席者名簿」参照

○傍聴人 1名

○事務局 6名

〔会議資料〕

・次第

・出席者名簿

【議案1】「平成24年10月1日付け一部区間の廃止」申し出について

【議案2】「地域生活」バス・タクシー運行事業（北部地区）の事業計画の変更（案）について

【議案3】平成25年度豊橋市生活交通ネットワーク計画の変更（案）について

【資料1】「レイクタウン線」のダイヤ改正について

【資料2】石巻・下条地域交通推進委員会の取り組みについて

・「とよはしバス・電車スタンプラリー2012」「夏休み小学生50円バス」チラシ

・とよはしバス・電車スタンプラリー冊子 「トヨッキーの夏休み絵日記」

・「柿の里バスシンポジウム」チラシ

・コミュニティバス東部東山線ポケット時刻表（平成24年度版）

議 事

1. 開会

- ・本日の議事録署名者として2名の委員が指名された。
- ・今回の議事の内容あるいは進行過程のなかで、非公開事項に関することがあるかどうかの確認がされた。（非公開事項に該当する事項はなし）

2. 議事

(1) 「平成24年10月1日付一部区間の廃止」申し出について

・事務局及び運行事業者から、「平成24年10月1日付一部区間の廃止」申し出について、議案1に基づき説明が行われた。

(事務局)

・豊鉄バス大崎線の廃止に関するこれまでの経緯を説明する。今年2月に豊鉄バスから愛知県バス対策協議会に対し、大崎線の一部区間の廃止の申し出があった。その後、豊橋市は豊鉄バスから大崎線の廃止の理由などについて説明を受けた。今年5月、豊橋市から廃止区間に関係する校区自治会長に対して説明を行った。前回の協議会で協議事項として説明をさせていただいたが、地域住民に対する説明について、再度、自治会と調整をする必要があるとの意見をいただいた。そこで、6月12日に関係校区に自治会長にその旨を説明して意見を聞いた。関係自治会長からはバスの利用状況や廃止となる路線の沿線に豊橋鉄道渥美線があることから、説明会は必要なく、廃止について周知をお願いしたいとの意見を受けた。周知については廃止の1週間前にバス停などで実施すると聞いている。

豊橋市としては廃止の申し出のあった区間から豊橋鉄道渥美線の利用は可能であることや近年の大崎線の利用状況を勘案すると今回の廃止はやむを得ないと考えている。

(質疑等)

(委員)

・廃止する路線では1日何便走っているのか教えていただきたい。

(委員)

・1日平均20回程度である。

(委員)

・今後も同様の廃止の申し出があると考えられるので、スムーズに対応するために地域住民、関係自治会との調整方法についてあらかじめ工程表を示してほしい。

(事務局)

・事業者から廃止の申し出があれば、整理して提示する。

・議長から、議案1について諮ったところ、全会一致で承認された。

(2) 「地域生活」バスタクシー(北部地区)の事業計画の変更(案)について

(3) 平成25年度豊橋市生活交通ネットワーク計画の変更(案)について

・事務局より、「地域生活」バスタクシー(北部地区)の事業計画の変更(案)について及び平成25年度豊橋市生活交通ネットワーク計画の変更(案)について、議案2、議案3に基づき一括して説明が行われた。

・地域運営団体の取組状況について、オブザーバーから報告が行われた。

(オブザーバー)

・平成24年4月1日から「柿の里バス支援会員制度」に取り組み始めた。目的は地域の人の協力のもと運行しているということを知っていただく。2つ目は経済的な支援をしていただくことである。

また、「ポイントキャンペーン」にも取り組んでいる。キャンペーンの内容は「柿の里バス」に乗車した際にスタンプを押し、8個スタンプを集めると粗品と交換できるというものである。利用者は60歳以上で女性の方が多いので、粗品は200円程度でそのような方に喜ばれる物を進呈している。

最近では月1回程度、「柿の里バスニュース」を作成している。「柿の里バスニュース」で利用者の生の声を地域の方に伝えることにより認知度が高まっているのではないかと思う。いろいろな取組に関しては、パンフレットを作成し、各戸に配布している

8月25日に豊橋市と共催で「柿の里シンポジウム」を行うが、地域の方の生の声が聞ける場であるので、いろいろご意見をいただくとありがたい。地域で支え、盛り上げる「柿の里バス」にしていきたいと思う。

(質疑等)

(委員)

・下りの利用者に対しては運転手が降車する停留所を確認するのか。

(事務局)

・このバスは利用区間によって運賃が異なるので乗車の際に利用者が目的地を申告することにより運賃を収受する。その時点で予約制区間の予約が自動的に発生し、運行することになる。

(委員)

・予約先はどこになるのか教えてほしい。

(事務局)

・豊鉄タクシー(株)になる。

(委員)

・予約がない場合は運行を打ち切るということであるが、地元以外の方が利用するつもりでバス停に来た場合、バスが来ないことを知らずに待ち続けるおそれがあるが、その点についてはどう考えているか。

(事務局)

・バス停には予約が必要である旨を表示するが、気付かない可能性もあるため、広報とよはし等で周知を徹底していく。

(委員)

・データを見ると、最近利用者が増加しているが理由を教えてください。

(オブザーバー)

・平成24年2月が急激に増加した理由は、「柿の里パスポート」の購入をお願いし、購入していただいたことによるものと考えている。また、支援会員制度で年間会費1,000円毎に「柿の里パスポート引換券」を1枚渡しており、「柿の里パスポート」があれば100円で石巻中山から豊橋医療センターまで乗れるので、経済的と考え、多く乗ってもらえるようになったのではないかと思う。二つ目に運行開始当初は認知度が非常に低かったが、時間をかけて周知を行うことで認知度が上がったことによるものだと考える。ポイントカードキャンペーンなどを契機に口コミで「柿の里バス」の認知度が上がっていったのではないかとされる。三つ目に、平成24年4月の変更で買い物目的での利用がしやすい運行経路に変更したことが考えられる。ファッションセンターしまむらやスーパーの前で停まるようになったが、利用者は女性が多いので、買い物目的での利用が増加したのではないかと考えている。

(委員)

・支援会員になる場合、乗車の際に運転手に言えばよいか。地域外の人が支援会員になる場合はどうするのか。

(オブザーバー)

・支援会員になる場合は申込書に住所と電話番号を記入し、提出していただくと「柿の里パスポート引換券」を渡している。原則として石巻・下条地域交通推進委員会の委員に申し出ている。

(委員)

・一般の人が支援会員制度や会員特典を知る機会がないのではないか。

(オブザーバー)

・支援会員制度のパンフレットを作成している。また、「柿の里バスニュース」などにも支援会員についての記事を載せている。地元の人に知ってもらうことを優先しているが、他の地域の人にも制度に賛同してもらえるようPR・広報を行うつもりである。具体的には現在は地域交通推進委員会の委員に申し出てもらおうことになるが、分からない場合は都市交通課へ問い合わせさせていただきたい。

(委員)

・運転手が支援会員制度を紹介することはないのか。また、何度も利用している人へ「柿の里パスポート」がお得であるといった情報提供を行わないのか。

(オブザーバー)

・運転手の人はやってくれており、車内にもチラシが置いてある。しかし、支援会員制度については周知が不十分かもしれない。

(委員)

・議案 2 について、10 月 1 日付で事業計画を変更しなくてはいけない理由は何か。なぜ路線を統合しなくてはいけないのか、統合によって石巻中山・豊橋医療センター間が一時間半もかかる。現行のダイヤに不具合があるなど理由があるか。

(事務局)

・前提として運行内容に関して地域運営団体で利用者や住民の意見を聞きながら検討している。もともと路線が分かれていて途中から一つになるのが分かりにくいという意見があった。それをふまえて、路線を一本にするメリットと運行時間が延びるデメリットを比較し話し合った結果、路線を統合するという結論に至った。この時期でなければいけないという特別な理由はないがこのような経緯があり、変更することになった。

(委員)

・時間はどれくらい延びているか。

(事務局)

・変更前ダイヤの第 9 便は石巻中山から下条地区を経由して豊橋医療センターへ行く便である。現行は第 3 便と第 5 便が下条地区を経由しない経路になっているが、変更後の第 1 便・第 3 便は、現行の第 9 便と同じような運行経路である。現行の第 3 便・第 5 便と変更後の第 1 便と第 3 便をそれぞれ比較すると 15 分程度延びているが、もともと下条地区を経由している現行第 9 便と比較すれば数分の延長に留まっている。

(委員)

・高齢者にとって「柿の里バス」の運行については、複雑な路線は分かりにくい。単純な単一路線で走っている方が分かりやすい。多少時間がかかっても高齢者は時間があるので、その部分は影響ないと思う。運転手が乗客に話しかけているとのことであるが、できれば老人クラブの人が話し相手として乗っていると、その人と話したいからバスに乗るといった人もいると思われる。利用者を増加させるためには、このようなことが大事な要素になるのではないか。

(委員)

・バスの中が社交場になっているということと思う。

(委員)

・敬老会では座席があるが、毎回同じようなグループや同じような場所に座る。一人暮らしの老人が多く、そういった高齢者にとっては帰っても会話が無いので社交場になるような場所を作ってほしいと思っている。

・議長から、議案 2 及び議案 3 について諮ったところ、全会一致で承認された。

3. 報告事項

(1) 豊鉄バス「レイクタウン線」のダイヤ改正について

・事務局及び運行事業者から豊鉄バス「レイクタウン線」のダイヤ改正について説明が行われた。

(質疑等なし)

(2) 「とよはしバス電車・スタンプラリー2012」及び「夏休み小学生 50 円バス」等について

・事務局から「とよはしバス電車・スタンプラリー2012 及び「夏休み小学生 50 円バス」等について説明があった。

(質疑等)

(委員)

・現在の利用状況については、「小学生50円バス」が8月7日現在で、合計3,185名、一日平均で176.9名、前年度の実績を取っていないので比較は難しいが、乗務員への聞き取りによれば例年よりも増えているとのことであり利用が増加していると認識している。確認したところ、特定の箇所に集中しているわけでもない。利用者に関しても子どもだけでなく家族など大人同伴での利用が多く、当初の想定通りの結果が出ている。「ええじゃないか豊橋一日フリーキップ」については8月7日現在の豊鉄バスと豊橋鉄道発売分で、大人が107枚、小人が19枚で、前年度は大人が30枚であった。前年比で増加しており、少しずつ認知されているのではないか。

(委員)

・良い結果が聞けて良かった。さらに増えると良いと思う。

(委員)

・企画として面白く、小学生の利用者が増えるのは良いことだと思う。「50円バス」と「スタンプラリー」が別の体系で動いているが、一体化した方が分かりやすいのではないか。

(事務局)

・今年は企画した時期がずれているため一体で実施したわけではないが、実施時期が夏休み期間で、スタンプラリーに50円バスが使えることもあり、相乗効果として利用者が増加したのではないかと考えている。

(委員)

・計画段階で別に動いていたので企画が別々になったが、子どもが50円で大人が通常運賃の予定だったが、自由に動くときに大人も割引があっても良いのではないかという意見もあった。限定されたエリアを動く際、子どもはバスを50円で利用し、大人はええじゃないかキップを利用するという形だと考えている。

今回の結果をふまえて来年、この企画についても議論していけばよいと思う。

(委員)

・50円バスのポスターについて、分かりやすいが、事実を記載しているだけなので、子どもにバスの利用を呼びかける方が良いのではないか。

(委員)

・50円バスは新城市や豊川市等他の市町とも協力して広域的に取り組んでおり、どこまで行けるのか分かっていない人も多い。豊橋地区では、一般的なポスターとともに、50円、100円で東三河でどこまで行けるか等の具体的な案内を示したポスターを並べて周知している。

・事務局長から閉会の挨拶があり、会議は終了した。

以上、議事の正確を証するため署名押印する。

豊橋市地域公共交通活性化推進協議会委員

..... (印)

豊橋市地域公共交通活性化推進協議会委員

..... (印)